

アンピシリンは胆汁コレステロールの分泌を抑制する

Ampicilin inhibits biliary cholesterol secretion: *Apstein MD, Russo AR* (Dig Dis and Sci 30: 253-256, 1985)

胆汁中の脂質構成の変化はコレステロールの溶解度を変えコレステロール胆石の形成と溶解に影響を及ぼす。脂質構成の決定に重要な役割を持つのは胆汁酸塩であるが、それ以外の物質もありうる。Carulli らはアンピシリンがヒトの胆汁の脂質構成を変え胆汁飽和指数を対照の75%に減少させることを示し、その機序としてアンピシリンが細菌によるコール酸からデオキシコール酸への変換を阻害しコール酸プールを増加させることを挙げた。しかし、アンピシリンはビリルビンや BSP と同

様胆汁中に分泌され、胆汁酸塩の分泌には影響を及ぼさず、コレステロールとリン脂質の分泌を直接抑制する可能性がある。そこでラットを用いアンピシリン投与前、中、後の胆汁中の胆汁酸、リン脂質、コレステロール、アンピシリンの濃度を測定した。アンピシリン静注開始後15分以内に胆汁量とアンピシリンの分泌が増加し始めた。同時にリン脂質とコレステロールの分泌が減少し始めたが、胆汁酸塩の分泌は一定であった。45分後にはアンピシリンの分泌は一定であったが、リン脂質の分泌は60%に、コレステロールの分泌は40%に著しく減少した。アンピシリンの注入速度を2倍にしたが、アンピシリン、リン脂質、コレステロールの分泌は変化しなかった。アンピシリンの注入停止により胆汁量とアンピシリンの分泌は減少し、リ

ン脂質とコレステロールの分泌は正常に戻った。アンピシリンによる胆汁量の増加は恐らく浸透圧性利胆作用によるものであり、リン脂質とコレステロールの分泌抑制はアンピシリンの血中から胆汁中への分泌段階における直接作用であろう。結果的にアンピシリンによる胆汁中の脂質構成の変化により胆石形成指数は対照の60%に減少したが、著者らは胆石溶解のためにアンピシリンの使用を勧めているのではなく、ケノデオキシコール酸やウルソデオキシコール酸以外にもアンピシリンのように胆汁中に分泌される薬剤がコレステロールの分泌を抑制しコレステロール結石の形成と溶解に影響を及ぼすことを強調している。

(愛知県がんセンター第1内科
種広健治 抄)

胃潰瘍患者での慢性胃炎の7年間の経過観察

Seven-year follow-up study of chronic gastritis in gastric ulcer patients: *Maaroos HI, et al* (Scand J Gastroenterol 20: 198-204, 1985)

慢性胃炎は胃潰瘍に随伴する所見で、この両者は、1個の胃の中で動的な現象を呈する。胃潰瘍は自然治癒の傾向を示すが、胃炎のほうは、一般に年齢依存性で進行していく。

著者らは、この両者の関連を明らかにすべく、112例の胃角部潰瘍を対象に、7年間にわたって体部および幽門洞の背景粘膜の研究を試みた。

初回と第2回(4年後)の内視鏡検査では、体部および幽門洞から2個ずつの生検を採取した。第3回(7年後)は、各々から4個ずつの生検組織を採取した。

初回の検査では、胃潰瘍患者の胃炎は、体部より幽門洞で著明であった。4~7年後では、全般に胃炎が幽門洞から体部へ進展する傾向をみた。そして体部粘膜の萎縮は、極めて急速に起こった。ほとんどの患者で、正常に近かった粘膜が、4~7年の観察期間に正常腺管が完全に消失するほどの萎縮の進展をみた。

体部胃炎が胃潰瘍の患者で急速に進展する理由の説明は困難である。一般に胃潰瘍の発生は、年齢と共に幽門洞から体部へと拡がる胃炎と関連があるとされている。再発潰瘍は、しばしば初発の潰瘍より近位に発生する。竜田によれば、これらの高位潰瘍は、胃底部胃炎領域に位置し、潰瘍が高位にあればあるほど、胃底部胃炎は著明になると述べているが、著者らの研究では、慢性胃炎が体部で進展したが、潰瘍の位置はほとんど変わらなかった。体部の萎

縮進行例では、潰瘍の再発はほとんどなく、このことは“no acid, no ulcer”の原理と符合している。

結局、胃潰瘍症は多くの症例では、自己制御疾患であり、体部での高度の萎縮性胃炎の進展が、胃潰瘍の自然史に明らかなる役割を果たしていると考ええる。

【訳者コメント】経過観察の研究では、症例の脱落は避けがたい。特に胃炎は、生命を脅かす疾患ではないので、脱落者が多くなる。この研究は、胃潰瘍の随伴性変化としての胃炎の追跡なので、脱落が少なくすんだものの、胃炎の研究は、的確な生検なくしては不可能なので、骨の折れる仕事である。近年このようなしっかりした胃炎の経過観察に関する研究が少ないので、大変参考になった。

(愛知県がんセンター第1内科
小林世美 抄)